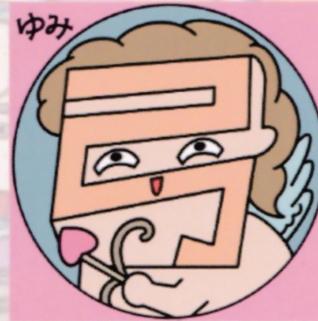


教育学部同窓会報



同窓会活動に思うこと

同窓会長 原 尚
昭和53年度 保健体育学科 卒業



【ごあいさつ】

「岐阜大学教育学部創立150周年記念事業」を大成功に導かれた高橋忠明会長のご退任を受け、会長職を拝命いたしました。前会長のような手腕は私には到底ございませんが、皆様のお力添えをいただきながら精いっぱい務めていく所存です。よろしくお願ひいたします。

「仕合わせ」

定年退職後、縁をいただき母校：岐阜大学に勤務している。私のこれまでの人生に関わってくださった多くの方々のおかげであると思い、「仕合わせ」を感じている。

現在、校舎の大規模改修の関係で、私の研究室も今年5月から保健体育棟に間借りをしている状況である。その棟の前の体育館入り口

付近に石像（右写真）がある。体育学科創立50周年を記念して平成11年に建立されたものである。

「人」という文字をデザイン化した石像で、「体育授業＝人間教育」を提唱された故 橋本正一先生（岐阜大学名誉教授）の思いを表している。



「仕合わせ」な出会い

私が学生の頃、橋本先生はすでに退官をしてみえたが、教員となり10年ほど経った頃に先生を師と仰ぐ先輩方の紹介で先生と出会った。たまたま、当時の私の勤務校が先生のご自宅近くだったこともあり、声をかけていただき先生のご自宅で飲んでいた時のことである。

先生はいつものように優しく微笑みながら私におしゃった。「教育実践に関する理論が実践の強力な司令として機能するためには、その最終的な根拠をその教師の人生観・世界観に求めなければならない。教師としての本来の生き方、人生哲学をもたずに子どもたちを真に育てることはできない。」

体育授業の研究に少しばかり興味を抱き始めたものの、子どもたち（「人間」の存在）から遠のいたところで物事を考え始めていた私に対しての一言だった。

『飛山千里之志 濃水百年不息』

この石像の右下には『飛山千里之志 濃水百年不息』という文字が刻まれた石版がある。先生の直筆文字を刻んだものである。『千里之志』は、クラーク博士の「少年よ、大志を抱け」から、『百年不息』は中国の故事「愚公移山」から思いついたと先生から聞いた。「飛山」（飛騨）と「濃水」（美濃）に託して、「飛騨の高い山々を越えるような雄大な志をもって、美濃の川が絶えず流れ続けているように百年の努力によって未来を切り拓け！」という意味である。

「仕合わせ」の向こう側にあるもの

社会の変化が加速度的に速くなっているのは事実だろう。一步先がますます見通せない世の中になっているのも確かだろう。しかし、そうした世の中であるからこそ、これまで以上に一人一人が雄大な「志」を抱き、弛まぬ「努力」をしていくことが一層重要なのではないかと感じる。

学部創立150周年を終え、新たなステージに入った今、本同窓会に組織体としての「志」はあるのか、弛まぬ「努力」はしているのかを自らに問いかけながら歩んでいかなければならぬと考えている。

この年齢になってもこうして自問自答できる機会を私に与えてくださった会員の皆様に感謝しつつ、「仕合わせ」の向こう側にあるものを求め続けていきたいと思っている。

教育学部・教育学研究科の充実・発展のために



教育学部長 山田 雅博

教育学部・教育学研究科は、岐阜県を中心とする地域の子どもたちの教育を支えるために、岐阜県の教員養成・教員研修の中心的役割を担うこととを使命としています。また、これらの役割のみならず、地域文化の振興においても重要な役割を担い、岐阜県の子どもの学びを支えていくことが地域から求められていると考えています。これらの役割を担うために、教育学部・教育学研究科の同窓会の皆様方には、日頃より多くの点でお世話になっていること、この場を借りて改めて御礼申し上げます。本稿では、近年の教育学部・教育学研究科の活動について、ご報告させていただきます。

教員就職率の向上に向けて

教育学部は、令和3年度より後期日程入試を廃止し、「ぎふ清流入試」(岐阜県の教員になることを個別・集団面接で確認した上での入試)における募集定員を拡充させ、さらに前期日程入試受験者全員に対する面接導入という改革を行いました。これにより、学部教員就職率の向上が見込まれると考えています。

教職サポート室の充実について

上記の取り組みに加えて、教育実習から教員採用試験までの一貫した学生支援を行うために、令和2年度に校長先生を経験された先生方4名による教職サポート室を新たに設置しました。さらに、令和3年度には教職サポート室と教育学部の教員をメンバーとする教職サポート委員会を立ち上げました。これにより、教育学部の学生に対する進路指導体制のより一層の強化を図りました。

岐阜県内での実習の拡充について

教育学部では、岐阜県内全域で学生が複数年にわたって同一校で行う実習(ACTプラン改善モデル)を実施しています。具体的には、令和2年度に岐阜県教育委員会及び県内の21市町教育委員会と連携し、教育実習協力校の数を従前の2倍程度に増やしました。この取り組みは、単に教育実習協力校の数を増やしたのみではなく、教育実習協力校との連絡体制を強化し、全学部体制で教育実習協力校との連絡等を行う学部担当教員を配置し、学生指導の強化・充実を目指したものです。そして、学部学生ができる限り地元地域の学校で実習ができるよう取り組んでいます。

るような体制を整備し、地元地域と教育学部とが連携して次世代の教員を養成していくという理念に基づいた取り組みです。

大学院教育学研究科の充実について

令和3年度までの大学院教育学研究科は、教職実践開発専攻(教職大学院)、総合教科教育専攻(修士課程)、心理発達支援専攻(修士課程)の3専攻からなっていました。近年は、教科領域についての学修ニーズの高まりや有識者会議報告書により、国立教員養成系学部・単科の全国の大学において、修士課程は原則、教職大学院へ移行することが求められました。本研究科でもこれらの動きに早急に対応するため、令和4年度より全10教科の教科領域を教職大学院に設置し、教科領域を含んだ教職実践開発専攻(教職大学院)と、地域から強い要望のあるスクールカウンセラーの養成を行う教育臨床心理学専攻(修士課程)の2専攻へと、教育学研究科の充実を行いました。

教育学部創立150周年記念行事について

本学部の歴史は、明治6年12月に創設された師範研習学校から始まりました。以降、一貫して地域の教員養成に尽力し、令和5年12月をもちまして、創立150周年を迎えました。教育学部同窓会におかれましては、令和6年6月2日に「岐阜大学教育学部創立150周年記念行事『教育学部同窓生の集い』」として記念式典等を盛大に挙行されましたことに、改めて御祝いと御礼を申し上げます。

教育学部・教育学研究科は、令和6年度より数年間をかけて校舎大改修工事を行う予定です。令和7年度は2期目の工事となります。これは、新たな時代を担う教員を育成するための学びの空間を創設する大きな事業です。すなわち、創立150周年を迎えた教育学部は、新たな時代に向かって動き出します。

引き続き教育学部・教育学研究科は、教育学部同窓会の皆様方と交流を深め、岐阜県の教員養成をリードする中心大学として、同窓会の皆様方と力を合わせて教員の養成に取り組んでいく所存でございます。同窓会の皆様方には、今後も温かいご協力とご指導をいただきたく、どうぞよろしくお願い致します。

新しい時代の教員養成に向けた学び舎のリデザイン

教育学部大規模改修 WG 副委員長

今井 亜湖

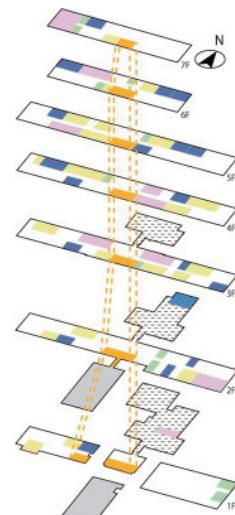
平成8年度 技術職業学科 卒業

令和6年度から教育学部校舎改修事業が始まりました。まず、令和6年度から8年度の3期にわたって7階建てのA棟を改修します。A棟は、教育学部・教育学研究科の銘板が正面玄関に掲げられ、屋上には銀色に輝く天体観測用ドームが設置された教育学部最大面積の建物です。この建物を縦方向に3分割し、東エリア、中央エリア、西エリアの順に工事を進める予定です。このレポートでは、昭和に建てられた校舎を、新しい時代の教員養成に向けて、どうリデザインするかをお伝えいたします。

■目指すは「新しい時代の教員養成学部の校舎」

岐阜大学教育学部では、山田現学部長を委員長とする大規模改修ワーキンググループを令和2年度に発足し、問題の整理に取り組みました。令和4年度からは杉森現副学部長が委員長を引き継ぎ、新たに副委員長2名を配置し、改修計画を本格的に作り始めました。

共用スペースの改修計画を担当するイノベーション部会では、新しい時代の教員養成学部のモデルとなる校舎を目指し、「セントラルコモンズ構想」というアイデアが生まれました。この構想は、共用スペースである講義室、学生・教職員が自由に利用できるコモンズを各フロアの中央に配置し、みんなが自由に学び合える空間を出来る限り増やすという計画です。コモンズの廊下側の壁面をガラス張りにすることで、晴天の日でも暗かった中廊下を明るくすることも意図しています。図1は建築学を専門とする杉山副委員長が作成した本構想のイメージ図です。



【図1 最初のセントラルコモンズ構想(2024年)】

■各フロアの中央に共用スペースを設けるために

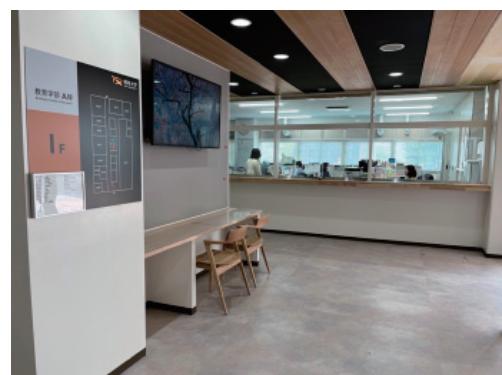
セントラルコモンズ構想が実現すれば、これまでの校舎ではできなかった様々な活動が可能になります。そのためには全てのフロアの部屋の配置や大きさを見直すという、岐阜大学では前例のない校舎改修計画を作成する必要がありました。この課題を解くため、委員長の指示のもと、副委員長による個別ヒアリングを、教育学部の校舎を使用している23組織を対象に実施しました。各組織が使用している部屋や研究設備の問題点、改修後に学生に提供したい教育・学習活動などを調査するとともに、イノベーション部会で検討した改修計画案に対する組織の意見も聴き取りました。各組織の要望を踏まえ、A棟改修案を練り上げ、令和4年12月に本学施設統括部に提示しました。教育学部の改修案をもとに文部科学省に概算要求書類が提出され、S評価を受けることができました。Ⅰ期工事は令和6年度で完了し、令和7年12月現在はⅡ期工事が佳境をを迎えています。

■令和6年度に完成したⅠ期改修エリアの紹介

Ⅰ期改修エリアは、化学、物理、家政、社会の一部と事務室および会議室です。各種サインの制作には美術や英語の教員など、Ⅰ期範囲外の教員にも積極的に関わってもらっています。



【地域科学部側から見たA棟東側】



【学務係前。ワークスペース等を新設。】

長良岐大跡地の石碑と師魂の文字に 込められた願い

総務部会長 菱川 洋介

平成 16 年度 数学教育講座 卒業

皆さんは、長良公園にあるこの石碑をご存じでしょうか。

この記念碑は2004年に建立されました。当時の資料によると、使用された石はサファイヤ・ブラウン(写真左)とバルチック・ブラウン(写真右)です。

この石碑は岐阜大学教育学部の歴史と精神を表すモニュメントとして、地域の方々にも大切にされています。今回は、この石碑の歴史と意味について、皆さんにご紹介したいと思います。



石碑建立の願い

建立当時には、次のような願いが込められたそうです。(岐阜大学教育学部同窓会報第10号より抜粋)



【2004年に岐阜大学教育学部創立130周年を記念し
教育学部跡地(現岐阜市長良公園)に建立】

教育の姿勢

教育の願いは、将来を見据えて決して揺らぐことなく、ドッシリと構え、意図的・計画的ではありませんが余り策に溺れることなく、自然体でありたいもの

人格形成

教育も人格の形成を目指し、見事に結晶としてくれることを願って実践していくもの

魅力と専門性

この石碑は石そのものに魅力を感じ、魅せられてその側に寄り添い、佇みたくなる思い(中略)教育も教育者の専門性と人間性に必然的に魅了され寄り添いたくなるものでありたい

「師魂」の文字に込められた意味

建立から10年後の2014年、サファイヤ・ブラウンの石に「師魂」の文字が刻まれました。建立当時の役員の方々との協議を重ねた上での決断でした。

「師魂」にはどのような願いが込められているのでしょうか。私は、記念碑が建立されたときの願いが「師」を表し、その願いを教育学部の学生や同窓生が持ち続けることを願って「魂」が刻まれたのではないかと推察します。

時代は目まぐるしく変化していますが、石碑や「師魂」の文字に込められた願いを実現し続けようとする姿勢が、我々に求められているように思います。

建立から21年、字彫りから11年が経ちました。この度、地域の方から石碑を大切にしてほしいとのお声をいただき、石碑の清掃と文字の塗布を行いました。是非、皆さんにも訪れていただきたいと願っております。そして、旧友との話題としていただければ幸いです。



【清掃・塗布完了後】



【石碑の清掃と塗布の様子】

令和7年度 岐阜大学教育学部同窓会役員

役員			評議員			理事		
会長	原 尚	S53 体育	遠山 健二	S62		安藤 志郎	S43	
	村瀬 康一郎	S53 数学	吉永 康昭	H 5		井上 好章	S53	木村 由紀 H 4
副会長	河合 錠夫	S52 技術	富山 哲成	H 8		可児 美紀	H 7	松本 郁子 H 6
	末松 豊生	S54 教育	大前 剛士	H16		渡辺 寛樹	H 9	児山 耕生 H 9
	大野 裕子	S58 英語	丹下 信輝	H19		細江 達三	H18	郷田 賢 H10
総務部会	○ 菱川 洋介	H16 数学	高木 敏彦	S48		森 透	S55	小笠原 淳 H15
	○ 鈴木 祥隆	H22 特支	武藤 貞昭	S49		古田 靖志	S58	師範 男子 宮脇 修 S24
	桑原 利光	S57 教育	川部 誠	S52		小竹 康一	S60	青年 師範 石田 幸彦 S24
	寺田 圭子	S60 数学	蓑島 一美	S54		武藤 正典	H11	
	○ 今井 亜湖	H 8 技術	黒木 和実	H 3		澤村 秀彦	H14	
組織部会	○ 古賀 英一	S59 技術	小林 直樹	S50		西脇 ひろみ	H03	
	政井 裕司	S55 体育	堀江 秀樹	S58		甲田賀津志	H04	
	高橋 清仁	H58 英語	吉野 光浩	S59		小野木陽子	H05	
	○ 深尾 雅人	S57 英語	各務 至	H 4		杉本 和昭	H06	
	○ 早川 剛	S60 数学	新井 恒雄	H 6		岸 智美	H11	
事業部会	北村 直子	S55 国語	村井 俊之	S56		竹市 安彦	S49	
	森 透	S55 地学	横田 稔	S57		川出惠美子	S53	
	松井 徹	S56 数学	丸山 靖生	H 3		鬼頭 立城	S60	
	河井 洋子	S57 家政	日比野 崇	H16		笠嶋 誠	H 2	
	林 則安	S60 地理	古川 徹	H19		清水 也人	H 7	
広報部会	江崎 麻美	S61 教育	近藤 新八	S43		野原 正美	S55	
	○ 山田 唯仁	H27 美術	柘植 卓伸	S52		清水 康孝	S59	
	○ 小戸戸あや乃	H23 家政	國定 幸敏	S53		中村 俊彦	S61	
	古田 信宏	S54 教育	柳井奈津子	H 元		野原 徹二	H 元	
	長村 覚	S57 国語	奥村 直也	H 5		高橋 茂洋	H 6	
監査	今井 正代	S57 数学	石神 淳司	S58		田中 正彰	S50	
	村田 伊津子	S61 国語	渡邊 勝敏	S59		高橋 忠明	S48	
	江崎 勝則	S53 体育	早川 剛	S60		清水 茂樹	S58	
	松巾 昭	S61 技術	奥田 浩順	S61		吉田 竹虎	S62	
	金森 香織	H 8 英語	森川 勝介	H30		淀川 雅夫	H 7	

○部会長 ○副部会長

(令和7年10月31日現在)

令和7年度 岐阜大学教育学部同窓会理事会・評議会報告

日 時 令和7年6月7日(土) 10時00分から
 場 所 岐阜大学教育学部本館1階B107教室
 出席者等 評議員・理事・役員 111名(内委任状出席 72名)
 会 議 議事については、議長として早川剛氏を選出し、以下の事項について審議した。

① 令和6年度事業報告
 菱川総務部会長、今井組織部会長、大塚事業部会長、鈴木広報部会長から、令和6年度の事業について資料に基づき報告があった。

② 令和6年度決算報告
 菱川総務部会長から令和6年度の会計決算報告があつた。

③ 会計監査報告
 高木敏彦会計監査から、会計監査の結果、予算の執行管理等適切に行われている旨の報告があつた。

④ 事業報告及び決算の承認
 審議の結果、報告の通り令和6年度事業と決算が承認された。

⑤ 次期同窓会長の選出について
 竹市安彦会長推挙委員より、次期会長に原尚氏を推挙する旨の報告及び推挙理由についての説明がなされた。これを受け、審議の結果、原尚氏を次期会長として決定した。

⑥ 新会長挨拶
 新同窓会長に決定した、原尚氏からの挨拶。

⑦ 新役員の決定承認と報告
 原尚同窓会長より、新役員の提案があり、これを承認した。

⑧ 旧役員の挨拶・紹介
 前同窓会長より挨拶があり、旧役員の紹介がなされた。
 ※※役員交代※※

⑨ 令和7年度事業計画
 菱川総務部会長、今井組織部会長、深尾事業部会長、山田広報部会長から、各部の事業計画の提案がなされた。

⑩ 令和7年度予算審議
 菱川総務部会長から、令和7年度予算についての提案がなされた。

⑪ 事業計画案及び予算案の承認
 審議の結果、令和7年度の事業計画と予算を承認した。

⑫ その他

令和6年度 教育学部同窓会活動報告

月	総務部会 等	組織部会	事業部会	広報部会
4	7 入学式 22 監査	● 同窓会役員変更状況確認	● 教育実践入賞論文集第39集印刷開始 ● 教育研修課との打合せ ● 臨時部会:数回	
5	18 運営委員会		● 第39集発刊 ● 第39集に係る教育研修課への依頼 20 第39集配布作業	
6	2 理事会・評議会 150周年記念行事	● 1年生IDパスワード配付	● 教育事務所長会、県小中校長会役員会に協力依頼 ● 県教委へ後援申請	● 第1回部会 (担当分担、細部打合せ)
7		● 会費未納者再請求	● 県教職員互助会へ助成金申請	● 担当者より会報の原稿の作成依頼
8	4 拡大運営委員会			
9				● 印刷業者の選定
10			● 教育事務所訪問 ● 総合教育センター長訪問	● レイアウト、挿絵、配置など ● 第2回部会編集会議
11			● 審査依頼: 都市教育長会長、町村教育長会長、県小中校長会長、同小校長会長、同中校長会長	● 会報の原稿の校正(初校) ● 会報の原稿の校正(2校)
12		● 会費未納者再請求		● 同窓会報第30号発行・発送
1				
2			● 論文概要入手、予備審査、最終審査資料作成	
3	25 同窓会入会式		3 第二次審査会 13 最終審査会 ● 第40集発刊手続き開始	

令和6年度教育学部同窓会決算報告

●一般会計

科 目	決 算 金 額
前年度繰越金	3,505,244
同窓会費	6,540,000
雑収入	604
合計	10,045,848

科 目	決 算 金 額
運営費	1,903,758
庶務費	1,399,390
事務管理費	210,349
役員会費	272,679
通信費	18,340
涉外・交通費	3,000
組織活動費	1,798,453
名簿管理費	725,715
同窓会入会式費	174,684
150周年記念事業費	898,054
学部援助費	445,165
事務援助費	385,165
教育文化助成費	60,000
事業活動費	756,956
成果刊行費	505,065
会議費	202,781
事務費	49,110
広報活動費	2,309,113
印刷費	1,094,658
通信費	1,214,455
次年度繰越金	2,832,403
合計	10,045,848

●事業活動基金

科 目	決 算 金 額
前年度繰越金	38,722,050
利息	1,215
合計	38,723,265

科 目	決 算 金 額
貸金庫料	8,800
次年度繰越金	38,714,465
合計	38,723,265

●教育実践事業基金

科 目	決 算 金 額
前年度繰越金	2,024,033
利息	7,022
寄付金	300,000
合計	2,331,055

科 目	決 算 金 額
教育実践論文顕彰費	412,000
次年度繰越金	1,919,055
合計	2,331,055

令和7年6月7日 評議会で承認済み。

令和6年度(第40回) 教育実践研究助成事業の報告

事業部会長 深尾 雅人

昭和 57 年度 英語英文学科 卒業

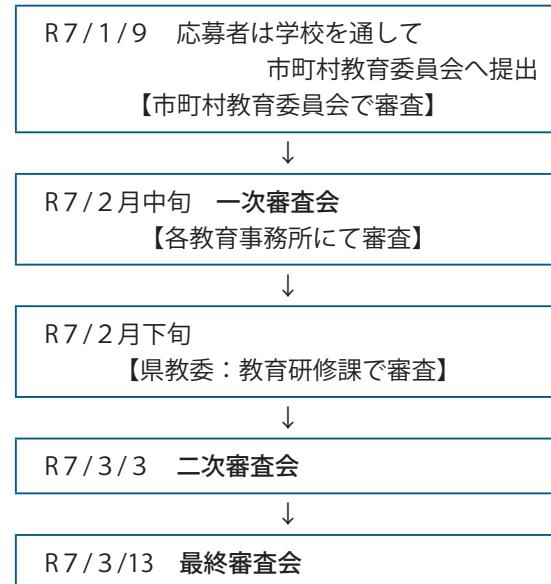
1. 令和6年度教育実践論文募集事業の応募状況から

応募者総数：645人(前年度727人)

- 20代の応募が約6割。若手教員が日々の実践を論文にまとめる通じて、自身の指導力を一層高めようとしている熱意を感じた。30代、40代の応募が減少しているのは、様々な要因が考えられるが、そうした中でも教育に対する使命感のもと自己研鑽に励み、学び続けよう実践論文に取り組まれた方々に敬意を表したい。
- 授業のみならず定期テストの問題の質の改善にも視野を広げた実践、自由進度学習と意図的な一斉授業を位置付け、単元構成の工夫をした実践、小1プロブレムを解消するための学級ソーシャルスキルをもとにした実践、校内研修を通して主体的な職員集団を目指した実践、特別支援学級における道徳科の授業実践、生徒のレジリエンスを育む実践等、優秀賞論文は学校現場が直面している様々な課題に創意や工夫を凝らして実践した内容である。こうした論文を参考にして、各校での様々な課題に対する取組の充実が図られることを期待したい。
- 実践の考察では、アンケート等を通して、量的な側面から、客観的に検討・考察しようとする試みがなされている点は、評価したい。一方で、授業での発言、子どもの姿の変容など、質的な面にも注目していくことが重要である。

2. 審査会の報告

(1) 経過



(2) 審査の観点

- ①教育の今日的な課題を踏まえ、解決の方向が明確になっているか。
- ②願う子どもの姿、指導の意図、指導方法等は明確になっているか。
- ③児童生徒の成長や変容の姿がよく表れているか。
- ④研究及び実践内容に創造性、妥当性が見られ、説得力のある論文であるか。

(3) 令和6年度「最優秀賞」

美濃加茂市立太田小学校 教諭 日下部 智也

地学を「さらに学びたい」と考える児童を多く育てるために
～可茂地区の魅力ある地層や岩石・地学における児童の実態・
教員の抱える地学指導の困難さの3面からアプローチして～

*理科の学習領域の中で、多くの教員が指導に困難さを感じ、児童の学習意欲の低下が伺える地学領域の学習という今日的課題に着目し、地域の魅力ある地学事象を教材化して実践した画期的な論文である。

*指導する教員の困難さの実態も踏まえながら、調査した地学事象を学習指導要領の内容に基づいて整理し、他の理科教員や専門外の教員にも実践を勧めて実証するなど、汎用性の高い実践である。

*自ら「地学情報サイト」を立ち上げ、豊富で繊細な画像データを基に、野外観察で得られる視覚的な実物感や空間的な広がりを教室でも得られる工夫に、斬新性もある。「地学をさらに学びたい」と考える児童の育成のために、県内の理科授業において教員が地域特有の地学事象を手軽に利用でき、教育的効果が大きく期待できる。

3. 今後に向けて

- 管理経営領域の応募論文が増え、学校経営や組織運営に対する問題意識の高まりを感じる。こうした管理職の実践も、県内に広めていきたいという願いから、令和7年度からは、管理職の学校改善・組織改善等に取り組んだ論文を顕彰する【特別賞】を新設する。
- 「入賞論文集」は、授業の構想の仕方、論文執筆の仕方、計画的な取組の仕方等、様々な場面で参考となるものである。個人研修や校内研修等の資料として、是非「入賞論文集」の活用を推奨したい。
- 働き方改革を授業づくりの充実につなぎ、教員としての働きがい改革につなげられることを期待する。



岐阜県小中学校 教育実践研究論文受賞者一覧

最優秀賞（1編）

美濃加茂市立太田小	日下部 智也	地学を「さらに学びたい」と考える児童を多く育てるために ～可茂地区の魅力ある地層や岩石・地学における児童の実態・教員の抱える地学指導の困難さの3面からアプローチして～ <理科>
-----------	--------	---

優秀賞（9編）

羽島市立竹鼻小	舛中 はるな	自発的によりよい人間関係を形成する児童の育成 ～ソーシャルスキルトレーニングと互いのよさに目を向ける活動を通して～	<学級経営>
各務原市立緑陽中	梅村 亮介	主体的・対話的な活動を通して、学びの有用性を実感できる生徒の育成 ～自由進度学習を成立させるための授業実践～	<社会>
笠松町立笠松中	古橋 良一	全国学力・学習状況調査の結果及び分析を踏まえた授業改善 ～思考力、判断力、表現力等を高める指導を通して～	<数学>
安八町立名森小	藤田 みづき	主体的に自己実現をめざす子どもの育成 ～願いをもち、自己理解を深め、自分らしく生きる子どもへ～	<特別支援>
揖斐川町立揖斐川中	松浦 亮太	チーム揖斐川で向かう「新しい教師の学びの姿」を具現する校内研修の充実	<その他>
郡上市立八幡小	久野 大地	自立活動との関連を明確にした道徳科の授業構想 ～自立した人間として他者とよりよく生きるために道徳性を養うために～	<特別支援>
瑞浪市立瑞浪小	福岡 菜々	児童の「もっと」を引き出し、学びの自己調整を促す学習指導の在り方 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の観点を踏まえて～	<社会>
中津川市立南小	磯村 圭介	主体的に問題解決し、「学ぶ楽しさ」を実感する児童の育成 ～第5学年 理科「物のとけ方」の実践を通して～	<理科>
高山市立松倉中	野島 友紀	心豊かにたくましく生きていく子の育成 ～生徒のレジリエンスを育む教育を通して～	<健康安全>

優良賞（40編）※主題・副題は省略して紹介します。

岐阜市立加納小	梅村 翔平	総合学習	大垣市立興文小	宗宮 桃子	特別支援	川辺町立川辺中	相良 英優	特別活動
岐阜市立長良東小	中川 貴斗	算数	大垣市立興文中	河合 亮	社会	可児市・御嵩町 中学校組合立共和中	中山 洋信	社会
岐阜市立梅林中	市原 優希	数学	大垣市立川並小	伊藤 俊	理科	多治見市立根本小	大蔵 康司	算数
岐阜市立藍川中	松村 祐汰	理科	大垣市立東小	細江 快	その他	多治見市立精華小	土屋 孝政	図画工作
羽島市立福寿小	坂井田 耕平	社会	垂井町立府中小	小寺 千恵子	その他	土岐市立泉小	渡辺 英弘	特別支援
各務原市立鵜沼第三小	林 茂宏	特別支援	垂井町立東小	グリニック美穂	生徒指導	土岐市立泉中	江崎 紀子	音楽
各務原市立陵南小	川村 さやか	理科	大野町立揖東中	遠藤 暖菜	音楽	瑞浪市立陶小	羽柴 美和	国語
山県市立高富中	曾我 幸正	社会	閔市立下有知中	田中 大輔	外国語	恵那市立恵那西中	中島 健志	理科
山県市立高富中	櫻井 かのこ	美術	美濃市立牧谷小	中谷 圭佑	特別活動	高山市立新宮小	見山 加奈実	特別支援
瑞穂市立穂積北中	和田 恵美	家庭	郡上市立三城小	大澤 美紀	体育	飛騨市立山之村中	山本 祐也	特別活動
本巣市立真桑小	牧野 あゆみ	学級経営	郡上市立八幡小	粥川 文恵	道徳	下呂市立竹原中	高瀬 裕史	生徒指導
本巣市立真正中	大西 昭裕	管理経営	美濃加茂市立下米田小	岩本 航	算数	白川村立白川郷学園	為永 克司	総合学習
笠松町立下羽栗小	山田 乾太	社会	可児市立西可児中	樋口 忠司	保健体育			
北方町立南学園	渡部 純一	教育相談	可児市立蘇南中	濱田 奈美	健康安全			

新人賞（24編）※主題・副題は省略して紹介します。

岐阜市立芥見小	柴田 麻由奈	外国語	養老町立笠郷小	川戸 菜緒	健康安全	白川町立白川中	牧野 みなみ	健康安全
羽島市立足近小	後藤 大輝	体育	垂井町立不破中	小渡 宇翔	社会	御嵩町立上之郷小	早矢仕 杏実	音楽
岐南町立岐南中	大谷 玲奈	その他	輪之内町立仁木小	清水 玲奈	特別活動	多治見市立養正小	大澤 歩水	学級経営
北方町立南学園	古橋 美幸	家庭	大野町立東小	江崎 綾香	国語	瑞浪市立瑞浪中	新美 夏	社会
大垣市立興文小	関 朱音	理科	美濃市立昭和中	大西 真帆	社会	恵那市立恵那西中	小栗 千絵	美術
大垣市立江並中	宮崎 若菜	音楽	郡上市立白鳥小	今村 優希	国語	中津川市立付知中	西尾 佳称	国語
大垣市立東中	小酒井 保乃佳	国語	美濃加茂市立峰屋小	堀 早織	特別活動	飛騨市立古川小	森本 航大	算数
大垣市立日新小	牧野 香乃	保健体育	可児市立広見小	曾我 昂平	国語	下呂市立小坂小	大前 昌士	社会

第40回教育実践研究論文の優良賞・新人賞の主題・副題は、同窓会ホームページよりご覧いただけます。



活躍する同窓生①



今のお仕事について教えてください。

岐阜市立則武小学校で校長をしています。創立150年をこえる歴史ある学校です。学校の教育目標「やさしく かしこく たくましく～思慮深い則武っ子～」の具現を目指して、563名の児童と日々楽しく生活しています。

管理職という立場で、デスクワークが多くなりがちですが、登校・下校時を中心に子どもたちと触れ合う中で、元気をもらっています。

岐阜大学で学んだことが役に立っていると感じることはどんなことですか？

国語国文学科という名が示しているように、私が在籍した当時は、大学の講義において、国語教育に関する指導法などはあまり扱われませんでした。「自分が学ぶ喜びを味わっていれば、必ず関わる児童生徒も主体的に学び始める。」と恩師からお言葉をいただき、国語学・国文学にどっぷり浸かった大学生活でした。

漢字音に関わる音韻学など大変難しい分野の講義もありましたが、そこで学びが、児童の発声など特別支援教育につながっていたりする等、国語という分野の本質を学ぶことが、教育の現場で大きな力を發揮することを実感しています。

小・中学校どちらにも勤務しましたが、恩師の教えは間違っていませんでした。

岐阜大学卒業後に学んだことや、学び直したことはありますか？

とても幸せなことに、教職生活38年のうち16年間を岐阜大学教育学部附属小中学校で勤めさせていただきました。国語とは、国語教育とは、そして教育とは等、同僚や大学の先生方と連日連夜、本質的な話題をとことん語り合えたことが、自分にとって大きな大きな財産となっています。やはり一つのテーマ・課題について、双方向でやり取りするディスカッションは、自分の学びの理解を進めます。

そして、ここでできた人脈の広さが、今の管理職としての自分の仕事も支えています。

改築される教育学部校舎やキャンパスで思い出に残っているエピソードはありますか？

私の学生生活は長良キャンパスからスタートしています。引っ越し後の柳戸キャンパスの校舎は、真っ白でピカピカで、変に緊張して講義を受けていた覚えがあります。

キャンパスライフでの一番の思い出は「大学祭」での神輿づくりです。当時は、学科の色を出した神輿を学年をこえて学科ごとに制作

岐阜市立則武小学校

校長 遠山 健二

昭和62年度 国語国文学科 卒業

し、岐阜市内を担いで練りまわっていました。40年近く前のことですが、ここで培った人々の関わりが、今の自分の人生を豊かにしています。

後輩の岐阜大学生へ贈るメッセージをお願いします。

自分が教職に就いてから今年で38年目になりますが、日々勉強の毎日です。子どもの数だけ教える手立ては異なるからです。

しかしながら、こんなに面白い職はないとも思っています。即効性はなくとも、練りに練って関わった手立てには、子どもは必ず何らかの反応を示してくれるからです。

「人を育てる」ことは、崇高なことであるとともに、生きている実感を得られるものです。教育・福祉・医療等、ぜひとも人に関わる職に就いて下さることを期待しています。





『新人先生奮闘記』

関市立緑ヶ丘中学校 教諭

齋藤 優佳

令和5年度 美術教育講座 卒業

担任として子どもたちに最初に話したことは？

私は初担任として2年生を担当し、専科の美術に因んで「ともに描く」という担任の願いを話しました。1年生で見つけた「らしさ」を自分の「色」として生かし、一人ひとりの成長や笑顔を「彩り」として絵を描くように、仲間とともに毎日を積み重ねていこうという意味を込めていました。真っ白なキャンバスみたいな4月から、全員の色が交じり合ったときに温かく素敵な学級になるといいなと思います。また、素敵に彩るために大切なことを2つ話しました。1つ目は「試行錯誤」です。目の前の壁に真剣に向き合い、願いをもって乗り越えることで、鮮やかに「成長」できるはずです。粘り強く試行錯誤していくことが大切だと思います。2つ目は「おもいやり」です。自分や仲間の「色」を認め、信頼・安心できる関係を作ることで、鮮やかな「笑顔」が生まれます。つい、自分の世界で行動してしまうと、色の調和がとれず汚い絵になってしまいます。誰かの幸せや安心のために自分から動ける姿のある学級をつくっていきたいです。そんな願いを話してスタートを切りました。

趣味で取り組んでいるものはありますか？

最近ハマっていることは動画作りです。友人の誕生日プレゼントにこっそり作っています。選んだ音楽

にのせ、歌詞に合った写真をタイミングよく表示させるなど拘り要素が沢山あり、時間を忘れて作ってしまします。これを活かして学級解散式に1年間を振り返る動画を作つて流しました。私は、「美術で人に喜んでもらうこと」にやりがいを感じます。学生の頃は、節目に仲間の似顔絵を描いたり仕掛け付きのアルバムを作つたり、文化祭での制作系などを喜んでやっていました。「すごい」と言われたくてやっていた節もありますが(笑)。教員の仕事も、得意な美術で子どもたちの笑顔や真剣な表情を引き出せるし、思い通りの作品にしようとたくさん質問をしてくれるので、やりがいを感じます。仕事も趣味も少し似ているのかなと思います。この夏休みは誰かのためだけでなく、自分の作品作りにも力を入れたいです。大学生時代は友人との外出が楽しく、デザイン専攻の課題の他、自主制作をしませんでした。しかし、働き始めて物理的に時間が取りづらくなると、ふとした時に「絵を描きたい」と思うようになりました。作品を作り溜めてギャラリーに展示したいので、夏休みをチャンスに取り組みたいです。

勤務で楽しかったことは何ですか？

日間賀島の宿泊研修を経て学級の成長を感じられたことです。事前取り組みでは時間行動を意識し、当日は「先生を頼らない」を合言葉に活動しました。しかし、班ごとのオリエンテーリング中にトラブルが発生しました。自分勝手な行動による迷子や班の解体などです。その後、全員で振り返りました。子どもたちはその後、取り戻すようにしおりを読み込み、見通しをもって声を掛け合い、時間行動を達成しました。何より嬉しいのは、研修後も授業準備の呼びかけや時間行動を継続できたことです。日常生活で習慣化し、授業評価「A」が続くようになりました。2学期に向けて、学級の課題はまだまだあります。呼びかけに応える側の意識を高め、仲間の発言にしっかり反応するなどです。大変なこと多く、たまに心が折れそうになる時もありますが、学級目標「HAPPY COLOR～助け合いともに描く～」に向けて、私も含めた全員が成長し、笑顔を増やしていくように頑張りたいです。



活躍する同窓生③



outdoor village 373

嶋田 佑樹

平成15年度 保健体育講座 卒業

東海北陸道上り車線で美並インターチェンジを過ぎ、最初のトンネルを抜けた直後、すぐ左側を見てください、そこから見える池とコテージがある場所が私の勤務地です。

皆様はじめまして、岐阜県郡上市美並町にありますoutdoor village 373（旧：フォレストパーク373）というところで、アウトドア施設の管理運営を行っている嶋田佑樹と申します。まず、最初に

今 の仕事（職場）について紹介させてください。

outdoor village 373は、アウトドアデビューをする方々や気軽にアウトドアに触れたい方々に、気軽にお楽しみいただけるような施設にしています。例えば、コテージには室内にテントを設置し寝袋で寝ます。室内のため天候に左右されることはありません。トイレやお風呂などの水回りも各コテージにありますので安心して過ごせます。さらに冷暖房完備……これ以上紹介すると、このページが宣伝で埋まってしまいますので、この続きは『outdoor village 373』で検索をお願いします。さて、なぜ教育学部の会報誌にアウトドア施設経営ヤローが投稿しているかと疑問を持たれた方もいらっしゃるかと思いますので、

これまでの仕事と現在に至るまでについて記します。

2003年度に教育学部保健体育講座を卒業し、岐阜県の教育現場に勤務しました。もともと教員志望ではありませんでしたが、いざ現場に入ってみる

と、目まぐるしい毎日に忙殺されながらも子どもの成長に携われることはすごく幸せでした。自分の性に合っていたように感じます。そんな中、40歳を目前にしていたとき、今の勤務地が経営不振から再興を目指し次の担当者を探しており、ご縁をいただきそちらにいくことに決めました。もともとアウトドアが好きだったのと、新しいことにチャレンジしてみたい欲は旺盛でしたので、即決しました。「転職してよかった？」とよく聞かれますが、まだまだ再建中のためなんとも言えません。しかし、『迷ったらチャレンジする自分』という自分の判断基準に正直になれたことはよかったと思っています。と記していると、若干サクセスストーリー的な内容になってきたくらいがあるため、話題をかえます。

現 在取り組んでいることを紹介させてください。

「貸借対照表って『たいしゃくたいしようひょう』って読むんだ」。というところからのスタートでしたので、人生で一番今が勉強していると言っても過言ではありません。教員から経営へ、何も勉強や準備をしないまま飛び込んだから、かなり苦労をしています。ですが、やればやっただけ、予約数や売上といった数値で表されるのがこの業種の特徴もありますので、結果がリアルに現れるのは刺激的です。今はさらなる経営改善に向けて、次のコンテンツ作りに勤しんでいます（←今ココ）。2025年夏にはカフェをオープンしました。また、秋には県最大規模の管理釣り場がオープン予定です。若

干ごじつけにはなりますが、大学4年間は自由な時間もたくさんあり、そういった時間を使って様々な経験を積んだ部分が感性や感受性となって、今の経営判断のベースとなっている気がします。ということ

後輩の岐阜大学生へ贈るメッセージに無理やり移ります

が、ここまで読んでもらっただけで十分満足ですので、こういう執筆依頼が来たとき用にずっと温めておいた詩の紹介をもってメッセージとさせていただきます。茨木のり子さんの「自分の感受性くらい」です。

＜自分の感受性くらい＞
ぱさぱさに乾いてゆく心を 人のせいにはするな みずから水やりを怠っておいて
気難しくなってきたのを 友人のせいにはするな しなやかさを失ったのはどちらなのかな
苛立つのを 近親のせいにはするな なにもかも下手だったのはわたくし
初心消えかかるのを 暮らしのせいにはするな そもそもがひよわな志にすぎなかつた
ダメなことの一切を 時代のせいにはするな わざかに光る尊厳の放棄
自分の感受性くらい 自分で守れ ばかものよ

出典：『茨木のり子詩集』岩波書店,2014,pp.171-172



着任された教員の皆様からのご挨拶

樋口 健太 先生

数学教育講座・助教



本年4月に数学教育講座に着任しました。専門はスペクトル・散乱理論で、主に量子力学に関わる数学的な問題を取り組んでいます。

弦楽器におけるハーモニクス奏法とは、弦の特定の場所を指で軽く触れながら弾く奏法で、指で触れないときとは異なる高さの音が鳴ります。理論上、ハーモニクス奏法で鳴る音は、指で触れないときに鳴る音の整数倍の周波数となります。これらの周波数は、数学的にはラプラス作用素の固有値に対応します。ラプラス作用素は、熱や波、量子的粒子など様々な物理現象を記述する微分方程式に現れ、行列と類似の性質を持ちます。行列を学んだことのある方は固有値という言葉をご存知だと思います。

スペクトルや共鳴(散乱理論における解析対象)は固有値を一般化した概念です。シュレディンガー作用素とよばれる、ラプラス作用素を“摂動”した作用素のスペクトルや共鳴を調べることで、量子状態の安定性などをることができます。本学の学生とは、社会の様々な場面で利用される数理モデル、特に微分方程式や差分方程式を用いたものについて一緒に勉強したいと考えています。

岩松 雅文 先生

特別支援教育講座・准教授



2025年4月に特別支援教育講座に着任いたしました、岩松雅文と申します。昨年度までは、栃木県の知的障害特別支援学校で勤務しておりました。

私自身が学生時代は動作法を学んでいましたが、教員になってからは、学校現場における持久走の指導、肥満改善の指導、授業実践、教材・教具の作成、性教育など、知的障害のある児童生徒への指導法を中心に研究を進めてまいりました。今後は、特別支援教育の教員を目指す学生の皆さんを中心に、現場での経験を生かした話をしたり、理論的な指導法などについて一緒に学んだりしていけたらありがたいと考えております。また、障害のある子どもたちを支える保護者や関係機関の皆様、そしてたくさんの子どもたちと出会い、関わっていきたいとも考えています。

今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

小井戸 あや乃 先生

家政教育講座・准教授



今年度より、家政教育講座に着任いたしました。昨年度までは岐阜県内の小学校に勤務しながら、小学生を対象とした金融経済教育について研究を進めてまいりました。

成年年齢の引き下げやキャッシュレス化の進展に加え、食品ロスや衣服の大量廃棄など、家庭科に関連する深刻な社会課題が顕在化しています。こうした状況の中、自分自身の幸福を追求するだけでなく、多様な情報をもとに現状を的確に捉え、多面的・多角的に「幸福とは何か」を一人ひとりが主体的に考えていくことの重要性を強く感じています。

私は、時代や社会状況が大きく変化する中においても、「自分自身や周囲の人々にとってよりよい生活とは何か」を見極め、最適な選択ができる力を育む家庭科教育の在り方を追究していきたいと考えています。今後は、学生の皆さんとともに学びを深めながら、地域や学校現場とのつながりも大切にしていきたいと思います。

どうぞよろしくお願ひいたします。

令和7年度に着任された教員のご紹介

令和7年4月1日をもって、着任された教員は次の通りです。

樋口 健太	助教	数学教育
小井戸 あや乃	准教授	家政教育
岩松 雅文	准教授	特別支援教育

退職教員のご紹介

令和7年3月31日をもって、退職された教員は次の通りです。

田中 伸	准教授	社会科教育(現代社会)
上田 真也	准教授	保健体育

教職サポート室の取組

～一人でも多くの学生を教員に～

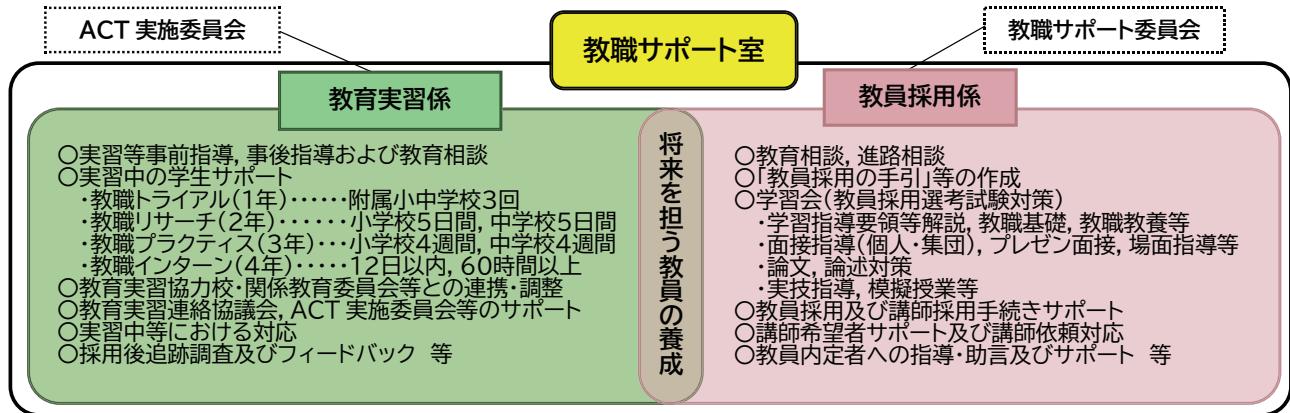
【教育指導員】

教育実習係：深尾雅人・早川 剛

教員採用係：末松豊生・大野裕子

令和2年、「ACT支援室」と「進路相談室」が統合、「教職サポート室」として新たなスタートをし5年目を迎えました。教育実習係(2名)と教員採用係(2名)は、それぞれ大学のACT実施委員会、教職サポート委員会と情報共有や連携をしながら、チームとして教員養成に関わり継続的に学生のサポートを行っています。

本学部生が4年間の学びを通して、社会人として立派に成長してくれること、そして、一人でも多くの学生がこれからの将来を担う子どもたちを育てていくことへのやりがいと使命感を感じ、教員をめざしてくれることを願っています。



教育実習係

出身地に近い場所での教育実習(小・中各2年生5日間、3年生4週間)

令和2年度から、出身地に近い場所での教育実習「ふるさと実習」を実施しており、概ね良好な反応を得ています。他県出身者の多くは、岐阜市内またはJR沿線の学校で実習しています。

教職トライアル→教職リサーチ→教職プラクティス→教職インターン

1年次：附属小中学校での観察

2年次：実習協力校での支援・ふれあい体験

3年次：従来の教育実習

4年次：希望者による希望校(実習校、出身校等)での職業体験

上記のように、学校現場での体験を段階的に充実させています。特に2年次の教職リサーチと3年次の教職プラクティスは、基本的には同じ学校で実習するため、教職リサーチの5日間の体験を活かして、3年次の教育実習に課題意識をもって臨むことができると、学生、実習協力校、共に好評を得ています。

また、今年度より、名古屋大学教育学部附属中・高等学校での実習がスタートしました。主に、愛知県在住で、自宅から通いやすいということで希望した学生のうち、今年度は5人の学生が教職リサーチ(中学校)の実習を行いました。

【教育実習協力校における「特別支援教育に関わる体験」について】

将来、特別支援学級の担任を志願したり、特別支援教育の視点を大切にした教育を志したりできる教員に成長することを願い、今年度より、教育実習協力校の特別支援学級等で5日間の体験をすることになりました。

教職リサーチ・教職プラクティスの2年間の中で、小学校3日間、中学校2日間の特別支援学級での体験を行います。特別支援学級の授業観察を基本としながら、学習支援、特別支援教育に関する講話、特別支援学級の行事の支援等を、実習協力校の実状に応じて実施します。

【教育実習係の関わり】

教育実習の事前指導・事後指導で、心構えの指導や体験の価値付け等を行っています。変わりつつある学校の様子や進路情報等、最新の情報を伝えています。また、自分の進路を考える節目の時に、比較的若い先輩教員から、様々な体験を交えた生の声を語ってもらっています。これらを通して、学生が、教員という仕事の魅力を感じ、希望をもって教員を目指すことができるよう願っています。

期間中は学校を訪問し、管理職との情報交換、学生一人一人への声かけ・励まし、大学への情報提供を行い、実習等の円滑な運営を支えています。



【教育実習】

教員採用係

教員を志す学生への進路相談及び教員採用選考試験のための「学習会」の実施と指導・助言

＜学習会の実施状況＞

教員を志している学生を対象に「学習会」を実施し、教員志望の90%強が参加しています。学習会を進めるに当たっては、教職サポート室作成の「教員採用の手引」や学習会資料を用いて指導・助言を行っています。「若者らしく元気で明るく『あなたの魅力を』『あなたの言葉で』『豊かに表現』」を合言葉に、全員合格、全員教員をめざしています。また、進路等で迷っていたり悩んでいたりする学生や1次試験・2次試験で不合格となった学生には助言等を行い、不安解消に努めています。

なお、教員採用選考試験に向けて実施している「個人模擬面接」では、面接官を岐阜大学教育学部同窓会に依頼しています。学生一人一人に的確かつ温かいご指導、ご助言をいただき、感謝しております。引き続き、同窓会のご協力のもと、学習会のより一層の充実を図っていきます。

学習会の内容(令和7年度)	
ステージI：教員になるための基礎学習(3年次)	ステージII：2次試験対策(4年次)
2025 1月 教員採用試験の流れと学習会の取組について 「面接の心得」 令和7年度実施 教員採用試験説明会(1/22)	4月 「印象に残る話し方」「ロールプレイ」 第1回模擬面接(選考試験当日を想定) 「小論文対策」
2月 「教師とは」と「子どもの心をつかむ指導」 保護者対応～保護者との信頼関係づくり～ 「危機管理」と「心と体の健康」 「生徒指導提要から学ぶ」 「学習指導要領総則解説」 実技試験対策：「模擬授業のhow to」	5月 合同グループ学習会(対面による面接練習) 「教育時事問題」 第2回模擬面接(選考試験当日を想定) 第2回模擬面接の個別指導(フィードバック)
3月 「過去問に挑戦」(教職教養を主に) 「授業づくり(教科経営)」 「学級づくり(学級経営)」 「体罰根絶」 「いじめ問題」 「不登校」	6月 校種別個人面接(追質問・場面指導含む) 個人模擬面接(面接官は外部指導者) 「プレゼン面接」・「場面指導」特訓 7月 試験直前実技「模擬授業」練習 (小学校は一斉、中学校は各教科で実施)
岐阜県願書等出願説明会(岐阜県教委)	2026 2月 ステージIII：教員としての心構え(4年次) 9月 講師任用説明会 10月 教員スタートアップガイダンスⅠ

＜教員採用選考試験受験状況＞

昨年度、採用試験制度が大きく変わり、1次試験に限り3年生で受験可能となりました。1次試験合格者は次年度の1次試験が免除され、2次試験からの受験となります。今年度実施においては、学習会参加者の内167人(1次免除者88人を含む)が1次選考試験を受けました。昨年度と比較すると教員志望が増えていますが、制度変更の影響があったかどうかについては、経年での検証が必要だと考えます。

なお、岐阜県に限れば、昨年度に比べ小学校志望が減り中学校志望が増えています。今年度1次試験を受けた3年生の志望校種状況においても同様の傾向がみられます。

現4年生の1次選考試験受験状況 [学習会参加者対象]

△	4年生				合計
	岐阜県	愛知県	名古屋市	その他	
小学校	44 (54)	15 (7)	2 (2)	9 (2)	70 (65)
中学校	51 (43)	14 (10)	5 (4)	1 (4)	71 (61)
高校	16 (8)	1 (2)	※中高	1 (0)	18 (10)
特支	6 (7)	1 (1)	0 (0)	1 (0)	8 (8)
計	117 (112)	31 (20)	7 (6)	12 (6)	167 (144)

()内は昨年度 ※複数受験者4人(小2人、中1人、高1人)

＜「2次試験を終えて&後輩へのアドバイス」(受験報告書からの抜粋)＞

- 自分自身ギリギリまで教員を志望するかどうか迷っていたが、試験のための勉強や準備を重ねることで、将来どんな道を進んでいきたいか明らかになった。
- 1次試験ではお互いに問題を出し合った。2次試験では何度も面接練習を行った。講座や学習会のメンバーと何度も練習をした経験があったからこそ、どんなことを聞かれてもその場で考え、答えられるようになり、自分の教育観を固めることができた。
- 「教員採用の手引」を読み込んで試験に臨んだら、面接もプレゼン面接も手引と同じような内容が多く出たので、やってきてよかったです。手引をばらばらになるまで使ったことが自信につながった。
- 日々、「なぜ」と問い合わせることが大切だと思った。教育には一定の流行語(「個別最適」「主体性」「対話」など)があり、それを面接の受け答え等でも使いがちだが、それがなぜ大切かを聞いていくと、意外と「不易」な要素だと気付くものだと、教採の勉強を通して実感した。
- いろいろな人と面接練習をする中で、「その話いいな」や「なるほど！ そういう解釈の仕方があったか」など、沢山の気付きをもらいました。これから教員採用試験へ向けて頑張る皆さんの隣には、必ず一緒になって頑張る仲間と先生方がいます。そのことを忘れずに学習会で学び、お互いに切磋琢磨しながら合格できることを願っています。



【「模擬面接」の様子】



【「個人面接」の様子(面接官：同窓会役員)】



【「模擬授業」(小・算数)の様子】

岐阜大学基金・特定事業【所得控除対象】

「岐阜大学教育学部創立160周年記念事業」ご寄付のお願い

現在、岐阜大学基金・特定事業として、教育学部と教育学部同窓会による連携事業「岐阜大学教育学部創立160周年記念事業」が設置され、昨年度より教育学部に関係する皆様から厚いご支援を頂戴しております。

この特定事業でご支援いただいた寄附金は、現在行われている教育学部棟校舎改修によって新たに創設される部屋（例えば講義室・多目的実験室・コモンズ）で使用する教育機器や什器の整備などで使用する予定です。なお、これらの教室は、教員研修や免許法認定講習などにもご活用いただけるように設計しております。

本事業への支援方法につきましては、本会報とともに同封されておりますチラシをご覧ください。皆様の温かいご支援をお待ちしております。



【壁面が灰色に塗装されている部分が1期改修エリア】

組織部会長 今井亜湖

会員専用システムの登録情報をご確認ください

会員サービスの向上を目的に、会員専用システム（通称：会員サイト）を用いた情報提供を積極的に行っていきたいと考えております。会員の皆様には、会員サイトで提供された情報がメールでも受け取れるように、メールアドレスをはじめとする登録情報の確認・更新をお願いいたします。

①「会員専用システム」へログインする

※初回ログイン時には、メールアドレスと生年月日の登録が必要になります。



<https://gifudai-kyodoso.jp>

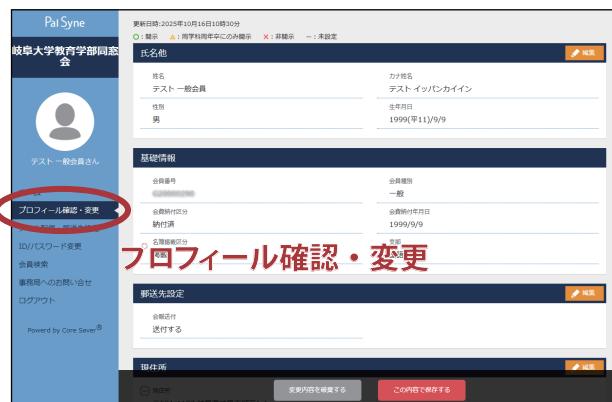


QRコード

②ご自身の登録情報の確認と変更を行う

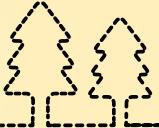
「メニュー」から「プロフィール確認・変更」を選択します。登録情報を変更したい場合は、「編集」ボタンを選択し、情報の更新をお願いいたします。

登録情報については、開示する範囲を設定することができます。詳しくは、編集画面上部をご覧ください。



住所、勤務先などの情報は **編集** ボタンをクリックし、編集画面で修正できます。

各学科同窓会の活動



英語

担当者：小竹 真史
連絡先：西濃教育事務所 ☎ 0584-73-1111

6年ぶりに、「岐阜大学英語英文学科・英語教育講座同窓会(ランタン会)総会」を開催しました。

【理事会】

- 期日 令和6年9月8日(日)
- 会場 岐阜大学教育学部附属小中学校
- 内容 令和7年度以降の役員改選について
評議員会及び総会の開催と案内について

【評議員会】

- 期日 令和6年11月23日(土)
- 会場 岐阜大学教育学部附属小中学校
- 内容 新役員の原案及び紹介について
総会の開催と案内について

【総会・講演会・懇親会】

- 期日 令和7年2月2日(日)
- 会場 ホテルグランヴェール岐山
- 内容
①総会 会務報告
会計報告及び会計監査
ランタン会会則改正について
役員改選
②講演会 講師：藤掛庄市様、松川禮子様
演題：Invitation to Kindle Literacy Promotion Project
「わたしの履歴書」(藤掛庄市、松川禮子著)
③懇親会

講演会では、100名以上の会員の方とともに、米寿を迎えた藤掛先生と、喜寿を迎える松川先生をお招きしてご講演を賜るとともに、お祝い申し上げました。懇親会では、60名以上の方とともに楽しいひと時を過ごしました。

【その他】

- ・次回は、令和9年度を予定しています。
- ・通信費の削減と評議員の方の負担軽減を図るために、総会案内につきましては、基本的にはオンラインでの申し込みに移行する予定です。ご不明な点がございましたら、英語英文学科・英語教育講座同窓会(ランタン会)事務局までお問い合わせください。ご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。



化学

担当者：馬淵 勝弘
連絡先：揖斐川町立揖斐川中学校 ☎ 0585-22-1265

★令和10年5月「吉松三博教授退官記念」を行う予定です。

吉松研究室出身生で今年度、化学科同窓会報「かんきせん」が届いていない方は現在、連絡がとれない人になっております。届いていない方は gidaikagaku@yahoo.co.jp に「郵便番号 住所 氏名 卒業年」をお知らせください。また、化学科卒業生で化学科同窓会報「かんきせん」が届いていない方も上記アドレスに知らせていただくと、同窓会報を郵送します。なお、住所等については、化学科同窓会以外で使用いたしません。

★今年度の活動

- 化学科同窓会報「かんきせん 37号」の発行・送付
- 卒業研究発表会への参加・支援
- 同窓会入会への説明
- 同窓会総会 令和9年8月予定
- 研究会活動(岐阜かがく教育研究会)

令和7年12月27日(土)13:00～予定

12月第4土曜日に、岐阜大学教育学部附属小中学校で実践交流会を行います。興味がある方はご連絡をお願いいたします。



【令和6年12月～佐藤先生、萩原先生、吉松先生を囲んで～】

その他の各学科同窓会事務局連絡先

学科	担当者	事務局連絡先	電話
国語	青木 垣悟	岐阜大学教育学部附属小中学校	058-271-0320
地理	坂口 亨	海津市教育委員会 学校教育課	0584-53-1467
法経	丸山 靖生	羽島市教育委員会 市長部局	058-391-3348
哲学	井上 達也	岐阜県教育委員会 義務教育課	058-272-1111
物理	竹腰 宣行	可茂教育事務所 学校職員課	0574-25-3111
生物	高橋 亮	岐阜大学教育学部附属小中学校	058-271-0320
地学	篠田 耕佑	岐阜市立長良小学校	058-232-2119
技職	森 建斗	岐阜大学教育学部附属小中学校	058-271-0320
家政	水野 菜月	関市立小金田中学校	0575-28-2301

数学

担当者：富倉 亮

連絡先：岐阜大学教育学部附属小中学校 ☎ 058-271-0320

(1) 本年度の活動

- 令和7年度 夏季研究会 可茂地区大会
- 【開催日】令和7年8月2日(土)
- 【会場】シティホテル美濃加茂
- 【講演】北方町教育委員会 教育長 名取 康夫 先生(31期生)
演題 「教育への思いなど」
- 【研究会】発表者 62期生 八百津町立八百津中学校 藤原 泰輔 教諭
64期生 白川町立蘇原小学校 伊佐治 郁人 教諭
72期生 御嵩町立上之郷中学校 柏植 菜緒 教諭



今年度は可茂地区大会として、可茂地区に勤務している先生に実践発表していただきました。今からは、提案に対して参加者は自分の考えを付箋に書き、それを模造紙に貼りながら意見を言い合う方法で研究会を行いました。最後に岩田恵司名誉教授と山田雅博教授にもお話をいただくことができ、48名の会員の方と共に充実した研究会になりました。

- 数学教育講座卒業予定者に対する、数学科同窓会「わしょう会」の組織・規約等の説明(令和8年1月予定)
- 「わしょう会」役員会の実施と、来年度以降の計画の立案(令和8年1月予定)



(2) その他

- 令和8年5月に「わしょう会総会」を予定しております。開催日が近付きましたら、改めて連絡させていただきます。ぜひ、多くの会員様にご参会いただきますようお願いいたします。

美術

担当者：清水 也人

連絡先：岐阜市立岐阜小学校 ☎ 058-265-6388

令和7年7月31日(木)に、岐阜県小学校図画工作・中学校美術校長の地区代表と本同窓会事務局が集まり、図工・美術教育の現状と課題、特に県大会のあり方や若手教員の育成について議論しました。【議事録：以下(1)(2)(3)に掲載中】

- (1) BAND「岐阜県図画工作・美術研究会」グループ募集中
・240名程(R7.9月現在)がスマホ等から「図工・美術」で気軽につながっています。
- (2) 造形教育関係者向けホームページ「岐阜図工・美術NET」更新中
・県造形教育実践を県内外の造形教育関係者に発信・交流する場をつくっています。
- (3) 岐阜県造形連盟ホームページ『ぎふ美術のかぜ2』更新中
・同窓生相互の連携と、美術文化及び美術教育の振興を図っています。
- (4) 同窓会入会式
・令和7年2月16日(日)、岐阜大学美術棟で実施

『岐阜県造形活動(図画工作・美術)』DXイメージ



史学

担当者：山元 祐介

連絡先：山県市立高富中学校 ☎ 0581-22-1063

令和7年度は、史明会総会及び講演会を開催いたしません。次回の開催は、令和8年8月を予定しております。その際は、多くの皆様方のご参会をお待ちしております。

体育

担当者：清水 康孝
連絡先：本巣市立真正幼稚園 ☎ 058-324-8323

(1) 令和6年度 優秀選手表彰

平成7年2月3日(月)：保健体育講座卒業論文発表会にて実施
本年度は12名の大学の現役選手の表彰を行いました。

(2) 令和6年度 同窓会入会式

令和7年3月25日(火)：卒業式後に実施
本年度は16名の新会員の入会がありました。

(3) 令和7年度 同窓会総会・還暦お祝いの会及び赤松諒一選手のパリオリンピック5位入賞をお祝いする会

令和7年6月14日(土)
会場：グランヴェール岐山
出席者：75名

毎年、原則6月の第二土曜日に、総会とともに還暦を迎えた方のお祝いと懇親会を行い、親睦を深めています。今年度も行うことができました。合わせて、岐阜大学保健体育講座の卒業生で、昨年、パリオリンピック走高跳競技に出場し、5位入賞を果たした赤松諒一選手をお祝いする会も行いました。赤松選手とご指導いただいている保健体育講座の林陵平先生と共に、懇親会までご参加いただきました。

赤松選手にはパリオリンピックの報告とともに楽しい思い出もお話しいただき、同窓生の懇親を深めることはもちろんですが、私たち保健体育学科同窓会としても、とても誇らしく素敵な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。



【同窓会・還暦をお祝いする会】



【赤松選手のパリオリンピック5位入賞のお祝いの会】

音楽

担当者：甲田 賀津志
連絡先：岐阜市立加納中学校 ☎ 058-271-3577

(1) 第19回音楽学科・音楽教育講座同窓会総会及び懇親会の開催

当初、令和4年度に開催予定であったところ、新型コロナ感染症対策で延期していた「総会及び懇親会」を、令和6年12月14日に長良川温泉「石金」にて開催しました。

総会では、これまでの活動の報告とともに、本会の持続可能な活動の継続のために見直しが行われた会則や役員組織、名簿管理等について(理事会にて議決)、杉本前理事長から説明がありました。また、懇親会では、令和元年度から5年度卒業の若い皆さんが実行委員となり、会の運営や企画を進めていただきました。実行委員の皆さんから、それぞれの大学生活の思い出を紹介する場面もあり、コロナ禍でも表現を追求してきた音楽への熱い思いや、当たり前のことが当たり前にできることのありがたさ、そして、音楽を通して人と人が繋がることの素晴らしいことを参加者で共有することができました。

(2) 卒業予定者への同窓会入会説明会の開催

令和7年1月24日に甲田会長と西脇理事長が、大学の音楽棟にて卒業予定者を対象に入会説明会を開催しました。同窓会の活動内容や組織についての説明等を行いました。

(3) 卒業記念演奏会を応援

令和7年2月24日に、OKBふれあい会館サラマンカホールにて卒業記念演奏会が開催されました。心を動かす素晴らしい演奏がホールいっぱいに響き渡りました。令和6年度も、同窓会からお花を贈呈させていただきました。なお、本年度は、令和8年2月7日(土)にサラマンカホールにて開催されます。

(4) 今後のお知らせについて

昨年度もお知らせ(同窓会報2024年度号[第30号]にて)いたしましたが、今後の「総会及び懇親会」のご案内や会報「間」の発行、名簿の登録情報や変更等については、岐阜大学教育学部同窓会ホームページを活用していきます。



【総会・懇親会】



【R6 卒業記念演奏会】

教育

担当者：小笠原 淳 ☎ 058-271-0320
連絡先：岐阜大学教育学部附属小中学校

コロナ禍で見送っていました教育学科同窓会を6年ぶりに行いました。

○日 に ち 令和7年(2025年)2月2日(日)

○場 所 ホテルグランヴェール岐山

○講 話 岐阜大学教育学部教職サポート室 末松豊生先生

末松先生からは、岐阜大学教育学部の歩みや教職サポート室の紹介などを、ユーモアを交えてお話ししていただきました。出席者は当時を、懐かしむ様子が見られました。

次回は、令和9年(2027年)2月に開催する予定です。多くの皆様のご参会をお待ちしております。



住所不明の会員へのお声かけのお願い

毎年引越し等により、同窓会報の送付ができなくなる会員が多数おられます。

昨年度から会員サイトの「お知らせ」にて「住所不明者一覧表」を掲載し、会員の皆様にお声かけいただき、ご本人から連絡先の登録依頼を行っていただいております。皆様のご協力のおかげで、毎年一定数の会員の連絡先が判明しております。本年度もご協力のほど、よろしくお願ひいたします。



<https://pu.palsyne.net/u-gif-kyouiku/>
会員サイト QR コードを読み込む

トップ画面右上のお知らせ「住所不明者一覧表【令和6年10月現在】」を選択し、「住所不明者一覧表 2024.pdf」をクリックする。

住所不明者ご連絡は
右記QRコードからお願ひいたします。



同窓会報第31号の表紙

《部首シール》デザイン

古賀 光季（令和6年度卒）

小学生のころに先生からもらったごほうびシールのように、学びの中に小さな楽しさや達成感を添えたいという思いを込めて、漢字の部首をキャラクター化した「部首シール」を制作しました。

教員になった今、子どもたちがノートや持ち物にたくさん貼って楽しんだり、シールを集めることを励みに勉強へ意欲的に取り組んだりする姿を見ると、当時全力で制作に向き合ったことの意味を強く実感します。

作品を振り返ると、夢中で工夫を重ねた日々がよみがえり、今の自分の原点を思い出させてくれます。



●編集後記●

最近、写真の面白さに改めて気が付きました。学校現場ではICT機器の普及が進み、カメラが搭載されているタブレット端末が一人ひとりに整備されている学校も多くあります。私が小学生だった頃は、フィルムカメラを持って校外学習に行っていました。当時旅先で使われるような使い捨てカメラは撮影枚数に限度があり、一枚一枚を大切に撮影していたことを思い出します。そういう時代から比べると、現代は子どもから大人まで、写真撮影がますます身近なものになっています。

私が専門とする図画工作科・美術科では、写真を使った表現の授業も実施されています。撮影した多くの写真から、意図を持ってセレクトし、レタッチ(色味などの調整)をすることも必要なスキルとなってきています。私はついつい撮影した中から派手で映えるものを選びがちなのですが、後からPCの写真フォルダを見返すとさりげない写真に惹かれることができます。

昨年度の150周年記念式典で放映した「教育学部150年のあゆみ」という動画を作成する際に、長良校舎で学生時代を過ごされた同窓会生から多くの写真をいただきました。なお当時の写真には、金華山が近い長良校舎の風景、通学する学生と通りかかる長良岐大行きのバス、学科の仲間と神輿をかつぎ市内を練り歩く同窓生たちの姿が写っていました。かつてあったものや過ぎ去っていく瞬間を写真は鮮やかに残し、今と結ぶのだと、そのメディアの奥深さを実感しました。また同窓会報の編集作業の中で掲載される写真を眺めていると、今の様子を伝え残すことの重要さにも気づかされます。

現在の岐阜大学教育学部では、校舎改修が進み、新しい教育学部棟に生まれ変わりつつあります。なお今回の同窓会報では、長良校舎跡の記念碑や、改修が完了した教育学部A棟の記事が掲載されています。同窓会報を通して、岐阜大学教育学部を懐かしむとともに、これからワクワクをみなさんと共有する、そんなひとときをお届けできたら幸いです。

(広報部会 山田唯仁)

岐阜大学同窓会報第31号

発行日 / 令和7年12月発行

発行者 / 原 尚

発行所 / 岐阜大学教育学部同窓会

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

TEL : 058-293-2344 (平日10時~15時)

FAX : 058-293-2343 (24時間)

E-mail : info@gifudai-kyodoso.jp

岐阜大学教育学部同窓会ホームページ
<https://gifudai-kyodoso.jp/>

